



少林寺 新時代へ第一歩

平素よりの格別のご厚情に深謝申し上げます。本年も皆様のご多幸と被災地の早期復旧復興申し上げます。

昨年の景気低迷、東日本大震災、台風等の被害が続き、人々は喪失感と絶望に陥ります。少林寺の現状をお伝えしてまいります。自分を慈しみ、他を敬い、共に支えあえる少林寺と共に考え、仏教やお寺が人生の支えとなれば幸いです。

現在、当山では皆様の信心と先代住職の布教活動もあり、当山は過疎地にも関わりますが、遠方の方も多

で苦しみ、世は乱れる中、僧侶やお寺の役割は大きく、社会への救済は仏教が道標となり、これまで以上に僧侶が人々へ示していくかなくてはならないです。

そこで、この少林寺たより「澤龍」(たくりゆう)から情報を発信し、仏様の教えを共に学び、皆様の灯に明るく和平な世が訪れるよう皆様と共に考え、仏教やお寺が人生の支えとなれば幸いです。

明けて一歳を加えました。限りある命を思うと、嗚呼！こんな生き方をしている場合ではない。今のうちに善いことの一つもしなければならない」と、焦りにも似た気持ちに駆られます。

●ご意見ご感想、次回の「澤龍」投稿募集（歴史・俳句・川柳・短歌・豆知識・活動等ジャンル問いません）お待ち致しております。

明けて一歳を加えました。限りある命を思うと、嗚呼！こんな生き方をしている場合ではない。今のうちに善いことの一つもしなければならない」と、焦りにも似た気持ちに駆られます。

いくつになつても遅くありません。思い立った日、それが己の吉日です。悪を払い、善きことならば実行致しましよう。

何年生きたかではなく、どのような生き方をしたかが大切なのではないで

謹賀新年

清涼 晃輝

少林寺たより 澤龍

平成24年
正月号

【発行所】
澤龍山少林寺

〒709-4606
岡山県津山市
中北上1150

【発行人】
清涼晃輝
0868-57-2303
E-mail:
seiryo-k@mx1.
tvt.ne.jp

仏の智慧に学ぶ

生死事大 無常迅速
各宜覺醒 慎勿放逸
〔六祖壇經〕

老いることは悲しいです。呱々の声を上げてより、赤ちゃんの時分の素直さと可愛さは、誰れもが持ち合わせ、喜々として躍動しての成長でした。

それなのに、いつのまにやら狡さや悪い欲望に染まるようになる。これが、多くの人が知らず知らずに歩んでいる道ではないでしょうか。

しかし、そんな人でも、年瀬を何とか越して元旦を迎えると、清々しい気持ちになるはずです。

いくつになつても遅くありません。思い立った日、それが己の吉日です。悪を払い、善きことならば実行致しましよう。

何年生きたかではなく、どのような生き方をしたかが大切なのではないで

【読み下し文】
生死は事大にして
無常迅速なれば
おのおの直しく覺醒して
慎んで放逸なること勿れ
〔六祖壇經〕

【現代語訳】

生死は仏の一大事、時は無常に迅速に過ぎ去つていくから、各人はこのことに目覚めて、弁道精進につとめ、無為に過ごしてはいけない。（禅宗六祖慧能禪師の言葉）

また、私はどこでも伺います。お悩み事、仏事法要相談など、どんなことでもお気軽にお尋ね下さい。（連絡先は右記をご覧下さい）

●ご意見ご感想、次回の「澤龍」投稿募集（歴史・俳句・川柳・短歌・豆知識・活動等ジャンル問いません）お待ち致しております。

初詣、まずは、感謝の合掌から

少林寺たより 「澤龍」

正月に雑煮を食べ、一家で神社に初詣をするのは、多くの日本人の習慣になっています。これをしないと、せっかくの晴れ着も見せる場がないし、正月らしい気分がしないという人が多いと思います。

ところで、神社に詣られる際に忘れないでほしいのが、お寺参りと我が家のお仮壇にお詣りすることです。今日はここにこうして、新しい年を迎えることができたのも、それはただの偶然ではなく、遙か昔から、途絶えることなく生命の火を灯し続けて来てくれた、何代にもわたるご先祖様のかげであります。

そう思えば、こうして人として生まれ、そこには色々辛いこと、苦しいことがあることで、生きていることにせよ、生きていることを、深く感謝すべきでしょ。また現在の生活は、実際に多くの人々の労働と智慧のお陰だということにも至

る事であります。感謝の気持ちを伝えられましたか。感謝

の気持ちを伝えられましたか。もちろん願いや目標を持つことはよいことでしょ

う。しかし、その前にこれまでのことを感謝し、手を合わせなければならないのではないでしょうか。祈願することよりも、まずは、感謝の気持ちをもち、合掌致しましょう。それから、今年の願いを一つ祈りましよう。

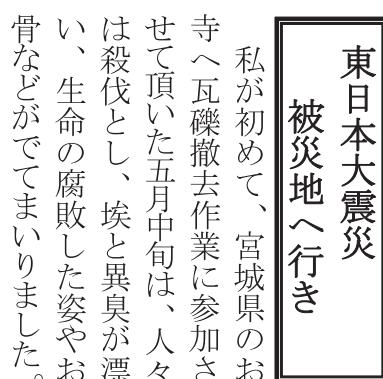
己の生命は、神様、仏様や多くの偉大なる力により、生かされています。感謝の念なくして願いが叶うのでしょうか。まずは、真心を込めて合掌致しましょう。

九月と十一月に訪れた際は、以前に比べると空気は澄み瓦礫撤去も進んでいました。そんな中、心の声に耳を傾ける活動をしている傾聴に取り組む宗教者の会（K T S K）に出会い活動しました。

例えば、私がお会いした人の中には、いつまでも涙が止まらない方、一見明るく振る舞っている方が辛い話を淡々とされました。今回震災で多くの方が喪失感、失望感をもつておられ、お一人お一人状況や環境は違ひ悩みも各々です。

震災において生と死の問題は大きいです。仏具・仏事相談や読經は、人に安らぎを与えることができるところです。（是非、下記のサイトをご覧下さい）

<http://ktskkttsk.jugem.jp>



途方もない作業の中、甚大なる被害で己一人ができるだけのや、被災者のためにと預かった仏具や物資とその気持ちは、被災された方のお顔を見て直接手渡しできます。自分が提供させて頂くものや、被災者のためにと預けられた仏具等の配布活動も行っています。

自分たちを、被災された方のお顔を見て直接手渡しできます。私は数日滞在しただけの話ですが、被災された方々は、毎日のことです。今も多くの方が悩み苦しんでおられます。自死に至る方もおられます。

「崎田農園」は、宿泊施設「ゲストハウス豊島」（一泊一人千円十五人迄）を完備し、自炊又は予約しておけば地元の魚介類が予算に応じて注文できます。みかん・デコポン・レモンなど様々な種類を栽培。周囲は、観光・釣り・海水浴なども楽しめます。

私も、日頃の生活から離れ、海を眺めゆつくりとした時間が過ぎ癒されました。實成様は、高齢化するみかん農家の手助けができ、多くの人に素晴らしい豊浜島を知つて頂き、自然に触れ癒しの場所になれば幸いだといわれます。農園の一部を無料みかん狩りとして開放されています。呉市豊浜町豊島三六九一一二

檀信徒を訪ねて

初詣、まずは、感謝の合掌から

るのではないでしようか。皆さん、初詣は何かお願い事をされましたか。感謝

の気持ちは伝えられましたか。もちろん願いや目標を持つことはよいことでしょ

う。しかし、その前にこれまでのことを感謝し、手を合わせなければならないのではないでしょうか。祈願することよりも、まずは、感謝の気持ちをもち、合掌致しましょう。それから、今年の願いを一つ祈りましよう。

己の生命は、神様、仏様や多くの偉大なる力により、生かされています。感謝の念なくして願いが叶うのでしょうか。まずは、真心を込めて合掌致しましょう。

九月と十一月に訪れた際は、以前に比べると空気は澄み瓦礫撤去も進んでいました。そんな中、心の声に耳を傾ける活動をしている傾聴に取り組む宗教者の会（K T S K）に出会い活動しました。

例え

平成二十三年 主な行事報告

【解制法要】

一月十五日、晋山江湖会の修行終了式である解制法要が御寺院八人、護持会役員二十一人の参列者を得て無事當まれた。



【総供養、 六地蔵菩薩開眼法要】

東日本大震災追悼法要、 六地蔵菩薩開眼法要

六月十九日、例年の先祖を弔う総供養と共に、三月十一日に起きた東日本大震災の犠牲者への追悼供養が約四十人の参列者をもつて當まれた。

その後、昨年十月に挙行された晋山江湖会に澤田操様（尼崎市）が当山墓地入口に六地蔵菩薩を寄進され、この度、魂入れである開眼法要が厳修された。



【大本山總持寺参拝】

六月二十八日～三十日、 曹洞宗大本山總持寺が能登

半島から横浜市鶴見へ移転して百年を迎える、曹洞宗六教区（美作地域）の僧侶・

檀信徒、計七十八人が参拝した。当山からは七人が参加。

一日目は、房総半島の鋸山、日蓮上人誕生の寺、鴨川シーワールド等を観光後、鴨川で一泊。二日目は、葛飾柴又帝釈天参拝、水上バスから東京見物し、總持寺

切さを説かれ、皆熱心に聞き入っていた。

その後、僧侶六人と檀信徒約五十人の参列のもと、初盆二十九靈と檀信徒各家の先祖を始め、東日本物故者、餓鬼道に苦しむ精霊等に供養された。

【盂蘭盆施食会】

八月十八日、恒例のお盆供養が執り行われた。お説教を、千光寺御住職、早川石峯老師（津山市林田）が

五眼について、目で見るだけなく、心で観る眼の大切さを説かれ、皆熱心に聞き入っていた。

身に宿泊し法要に参列した。三日目は、鎌倉に進み、鎌倉大仏、鶴ヶ岡八幡宮に参り団体参拝を終えた。皆、身心共に洗われたと言われていた。

【曹洞宗岡山県事務所落成】

曹洞宗岡山県宗務所は、

高梁市にあり、事務手続きを始め県の中枢機関として運営・布教活動を行っています。老朽化のため、約七千四百万円をかけ再建され、六月に落慶法要が當まれた。少林寺護持会からは六拾万六千四百円を寄進。披露会には、福島鎮夫様、高本濟様が出席。

【特派布教講習会、 人権学習、教区総会】

毎年恒例の法話会が、九月二十九日極楽寺（真庭市）で、觀興寺御住職（福岡県）

が、利他行である、向かい合う、伝えあう、共に支えあう大切さを約六十人に説かれた。少林寺からは、福島鎮夫様、川西智様、住職が参加。

【管内人権学習会】

人権学習会が十一月二十四日に「風広場おおさ」（新見市）にて法光寺御住職（三重県）が、ご自身の体験から学ばれた敬う心の大切さについて共に考え差別をなくしましょうと強いメッセージを残された。

参加者約四百人の内、少林寺からは、川西智様、高本済様、奥寿彦様、片山勇様、住職の五人が参加。林寺からは、川西智様、高本済様、奥寿彦様、片山勇様、住職の五人が参加。

御詠歌

少林寺たより 「澤龍」

第1号

平成二十四年一月一日発行
御詠歌講員募集中です。
お気楽にお問い合わせ下さい。

極楽寺、與木淳恵先生が平成二十二年十二月二十日に亡くなられたため、昨年四月より、源福寺副住職、小谷典尚先生（倉敷市）をお迎えし、他寺からの講員も含め、計十八人で月二回合同練習をしています。

総供養（六月）、盂蘭盆施食会（八月）でお唱え頂きました。

『施食会』岸光子様、三船啓子様、河原崇子様ありがとうございました。

※勝手ながら、急な日程変更もあります。事前にご確認頂ければ幸甚です。

〔一月～六月の予定〕	
●一月十四日（土）九時	清掃奉仕活動を、坪井下地区（六月）中北上地区
●二月十一日（土）九時	（八月）中北下地区（十二月）
●三月十日（土）九時	ご婦人達のお力添えによりお寺がとても綺麗になりました。
●四月十四日（土）九時	次の方に法要接客係を「要」奥けい子様、政安善子様『総供養』澤田叔子様『施食会』
●五月十三日（日）九時	奉仕頂きました。『解制法要』
●六月九日（土）九時	総供養（六月）、盂蘭盆施食会（八月）でお唱え頂きました。

少林寺婦人会



新企画　覚禅会

「覚禅会」（かくぜんかい）と名付け、坐禅・読経・

写経等を少林寺にて修行致します。毎月一回を予定致しております。

九時～坐禅（休憩）

十時～読経、写経等

参加費無料。坐禅と写経の二部制です。一方の参加も可能です。初めての方ご指導致します。足の不自由な方の坐禅は、椅子に座り足を組まなくてもできます。坐禅はジャージ等楽な服装でご参加下さい。どなた様でもお気軽に御参加下さい。

※団体の場合ほど連絡下さい

平成二十二年十二月二十日に亡くなられたため、昨年四月より、源福寺副住職、小谷典尚先生（倉敷市）をお迎えし、他寺からの講員も含め、計十八人で月二回合同練習をしています。

総供養（六月）、盂蘭盆施食会（八月）でお唱え頂きました。

『施食会』岸光子様、三船啓子様、河原崇子様ありがとうございました。

※勝手ながら、急な日程変更もあります。事前にご確認頂ければ幸甚です。

お月さま

古いものの良さを見直そうという機運が社会の隅々に感じられます。日本家屋の良さとか廃絶してしまった伝統行事の再生とか、これまで捨てて省みられなかつた古いものの復活をよみがえります。明治時代以降百数十年ですが、さまざまなもののが登場しては古いものを壊してきた流れが行き詰つてしまつた現在を映しています。

お正月のあり方などもこれからは真剣に考えられていい課題です。都会に住んでいると、新年はますます普通の日と同じで、厳肅、新鮮で、ワクワクする特別な感じがなくなっていますが、西暦の一月一日を日本で正月としたのは一八七六年（明治六年）から。現行の西暦はカトリック教会が制定したのですが、一月一日が新年では欧米の季節感にも合わせず、疑問に思う欧米人も増えているようです。

旧正月ということばを聞かれたことがあるでしょう。伝統的な日本の正月は一月一日とはぜんぜん違う日取りでした。立春にいちばん近く、月が新月の日を正月一日とするもので（これがいわゆる「旧暦」です）、今年の場合は西暦一月二十三日がその当日。立春のころはまだ寒いには違ひありませんが、日の出・日の入りの時刻、太陽の滞空時間、その方角など、すべてがようやく冬を越えたという実感をもてるとき。そして何より、再生・復活の象徴である月が新しく誕生するときというのがうれしいことでした。

このような伝統的正月の復活！
そんな夢を二〇一二年初頭、私は夢見ていました。
(是非、下記サイトご覧下さい。月の面白さ、曆の大切さが満載です)

文 志賀 勝

（月の面白さ、曆の大切さが満載です）